

令和6年5月22日

令和6年度学校関係者評価報告書

静岡県美容専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人静岡県美容学園静岡県美容専門学校学校関係者評価委員会は、令和5年度自己評価報告書に基づいて学校関係者による提言書の提出を受けましたので、以下のとおり報告します。

1 実施日

令和6年5月22日（水）午前9時55分～午前11時40分

2 実施内容

授業参観、学校報告会及び学校関係者評価委員会

3 学校関係者（評価者）

清水美保子氏（静岡県立静岡商業高等学校教諭）

成島 修氏（静岡県立駿河総合高等学校教諭）

吉川 恭平氏（卒業生 ヘアーサロン Yuu'ai）

栗田真友美氏（昼間課程2年生保護者）

4 報告者（補足資料作成者）

校長 望月ひとみ

事務主任 佐々木理人

総務担当 園田 環

5 参加者

理事長 提坂 直

6 評価会議の概要

<はじめに>

本校は、学校の質保証と向上を目指して「学校自己評価」を行っている。具体的には、教職員による「自己評価」と、「学生の学校満足度調査」・「学生の授業アンケート調査」を行い、学校が抱える課題の明確化と改善を図ってきた。

本校では、この「自己評価」に加えて、組織的で継続的な教育活動の改善とキャリア教育の充実を一層図るため、外部の有識者による「学校関係者による評価会議」を開催して、指導・助言や提言を頂いている。

当日は、初めに授業参観で学生の取組状況を見ていただいたのち、学校からの報告、評価会議の順に進めた。会議では、学校の特徴的な取組などを各担当から説明した後、評価者から意見、改善すべき点、提言等を伺った。

7 授業を見学しての感想

- ・授業を行うクラスでは、複数の教員が授業に入り、特に実技の授業では個々の生徒で進み具合も異なるため、教員がフォローしたり声掛けしたりすることで手厚いサポートがされていることが印象に残った。
- ・生徒の様子が前向きに生き生きと取り組んでいる様子が見受けられた。化学の授業では技術だけでなく、知識として必要なものが背景にあることが説明されていて、義務教育から結びついてきているところもあるのだと感じられた。非常に新鮮であった。
- ・授業として方向が定まって、目標に向かっていく姿勢が見受けられた。雑談をしている生徒もなく授業に対する生徒自身の取り組みがあった。専門学校の授業が実習も座学も変わってきていると感じられた。
- ・専門学校での授業を見る機会がなかったが、今回、普段の授業風景が見ることができてよい経験ができた。生徒が希望して選んでこの学校を選んでいるので真剣に学んでいる姿を見せてもらえた。

質疑応答

質問 「サロン」という言葉についてのイメージについて説明してほしい。サービスがよい美容室というイメージなのか

回答 美容室での業務という意味であり、顧客によりそう業務というイメージで使用している言葉である。美容室の店舗での業務という意味で使用している。

サービスがよいという意味合いではなく、高校生にとっても伝わりやすいように使用している。

質問 生徒からの評価について管理運営などについても評価があったのでしょうか
授業参観ではランチルームの改装が行われていたのが見受けられ、生徒の意見が取り入れられているのかと思っている

回答 例えば施設について満足度調査を行った結果をふまえて、改築工事を行なっている。満足度調査を行ったうえで改善をしてくれている。

学生アンケートも活用し、学校生活の改善も行っている。

質問 高等学校においても入学者が減少している。具体的にはかつて7クラス募集を行っていたものが、現在では5クラス募集になってきている。

専門学校においても入学者の減少は当然のことながら予想できる。大学、専門学校、就職のすべての分野で進路希望を募っている。

静岡市内の美容専門学校だけでなく、県内や県外の美容専門学校からアプローチがある。そのような募集活動について意見を伺いたい。

回答 少子化は避けられない。静岡市のみならず中部地区でも減少しているのは理解している。県内全域から募集するため西部地区や東部地区から集めていきたいと考えている。そのために、学校の内容などガイダンスをしている状況にある。

学校の生徒の状況などもアピールしながら大都市圏と同等の授業ができていく

ことを高校生に伝えてきたいと考えている。

学校の特色をアピールするときに迷走しないことが重要だと思っている。毎年、特色のアピールポイントが変わってしまえば、入学を希望する高校生にとっても迷いが生じてしまうだろうと考えられる。

本校では生徒指導をしっかり行い、良い人材を社会に送り届けるという点は変更なく続けていきたい。そのような点を特色としていきたいと思っている。

質問 専門学校ではSNSの活用は行っているのか。

回答 SNSではInstagramは教員が中心となって授業の様子や学校行事を定期的に発信している。TikTokは生徒が中心になって動画を発信している。

生徒の立場で学校生活を発信していくことは、入学を希望する高校生にアピールできると考えている。

TikTokについては、専門学校のクラスごと生徒が担当者となって発信している。

8 学校関係者による意見、提言等

(1) 教育理念・教育目標

(学校関係者の評価・提言)

- ・特になし

(2) 教育活動

(学校関係者の評価・提言)

- ・専門学校の在校生において充実した学校生活を送り、技術を身につけ就職していくことが重要だと感じる。そのためにも、現状の問題点に対する方策を立てていることが必要である。
- ・複数の教員が1クラスの授業に入って、技術指導のサポートしていることは充実した授業ができていると感じた。
- ・カリキュラムの内容も改定を行っていて、生徒も目標を持って授業を受けている姿が見受けられた。
- ・学校において国家試験合格が最も重要な目標ではあるが、美容の業界での必要とする人材と学校の授業内容で意見があると思われる。その中で専門学校として特色に迷いが無いというブランディングが重要だと思われる。
- ・授業を見学させてもらったときに、グループワーク（数人ずつのグループに分かれて、討論や制作などを行う授業方法）を活用した授業もよいと思われる。

(3) 学生受け入れ

(学校関係者の評価・提言)

- ・生徒がSNSを活用して学校内容を発信していくことは、高校生にとっても魅力的だと考える。
- ・コンテストで入賞されたときなどのアピールできるときにはSNSを活用していったほうが良いと考える。
- ・少子化により入学者の確保が難しい時代が来るとと思われる。学校の経営も入学者の

確保が必要であり、そのためにも生徒が主体となるようなアピールが必要である。

- ・静岡県美容専門学校の特長が国家試験だけと思っている高校生がいるので、授業の内容や方針についても広報を進めて、国家試験だけではないというアピールを続けて頂きたい。

(4) 教職員組織

(学校関係者の評価・提言)

- ・特になし

(5) 施設・設備等

(学校関係者の評価・提言)

- ・特になし

(6) 学生生活支援

(学校関係者の評価・提言)

- ・学生アンケートの結果を検証し、方策を検討することが学生生活の充実に有用である。
- ・高校などの生徒会や生徒会長などの組織を置いて、学校側と対等に折衝できるようにすると満足度が向上すると思われる。

(7) 管理運営

(学校関係者の評価・提言)

- ・特になし

9 自由意見

- ・授業参観や専門学校の報告を受け、充実した学校ということが感じられた。
- ・就職先である業界が発展していくことが専門学校の生徒が充実していくことになるのではないかと感じた。
- ・美容業界においては独立して美容室経営をしないと生活ができないということは、高校生にとっても将来に不安を持ってしまうので、美容業界が発展するためにできることがあるかということも検討することが必要だと思われる。
- ・手に職があることが社会において価値があるということをアピールして頂きたい。
- ・就職して技術をもって仕事をすること楽しみに期待したい。